

## 観光リゾート産業の振興に関する県民の意識調査

### (要旨)

1. 観光収入、公共工事、基地収入が県経済に占めるウエートの大きさの順位については、1位に「観光収入」と回答した人の構成比が34.1%と最も高く、次いで「公共工事」(32.3%)、「基地収入」(28.9%)の順となった。2位では「公共工事」(32.9%)が最も高く3位では「基地収入」(35.7%)の回答が最も高くみられた。
2. 沖縄の観光リゾート産業が発展した要因(複数回答)については、「沖縄の観光資源(自然・文化)」と回答した割合が65.6%で最も高く、2位の「県内業界の取り組み」(32.3%)を大きく上回った。次いで「航空会社の取り組み」(24.3%)、「行政の取り組み」(17.2%)、「国民の旅行需要拡大」(15.6%)、「大手旅行社の取り組み」(15.5%)の順となった。
3. 県の産業としての重要性については、「重要な産業である」が81.6%と大半を占め、次いで「普通」(17.0%)、「重要な産業ではない」(0.4%)の順となり、観光リゾート産業が本県の基幹産業であるといった認識は県民の中で極めて強いといえる。また、勤務内容と比べての待遇についてのイメージは、「普通」が64.0%で最も高く、次いで「良くない」(22.0%)、「良い」(10.1%)の順となった。仕事としてのステータスについてのイメージは、「普通」が74.3%で最も高く、次いで「高くみられていない」(12.3%)、「高くみられている」(10.5%)の順となった。一方、就職人気の高さについてのイメージは、「普通」が63.9%で最も高く、次いで「就職人気が高い」が19.5%で「就職人気が高くない」(14.6%)を上回った。
4. 観光立県の県民として、普段取り組んでいること(複数回答)については「ゴミのポイ捨てをしない。ゴミを持ち帰る」が77.3%で最も高く、次いで「かりゆしウェアの着用」(28.7%)、「祭り等のイベントに参加」(19.7%)、「困っている観光客への声かけや手助け」(17.5%)、「花を植える。花を飾る」(16.6%)、「街の掃除への参加」(11.5%)、「特にしていない」(10.4%)、「観光ボランティア」(2.8%)の順となった。
5. 今後、観光リゾート産業が県経済に占めるウエートについては、「より高めていくべきである」が66.5%で最も高く、次いで「現状程度でよい」(26.4%)、「他産業のウエートを高めるべきである」(4.7%)の順となり、今後とも観光リゾート産業のウエートを高めていくべきであるといった意見が過半を占めた。

6. 今後、振興した方がよい観光リゾート産業の部門（複数回答）については、「芸能・文化等の祭りやイベント」が40.8%で最も高く、次いで「マリンレジャー」（39.3%）「保養・療養など長期滞在型観光」（30.0%）「企業・団体の慰安旅行・研修」（22.4%）「スポーツイベントやスポーツ合宿」（22.3%）「離島観光」（19.5%）などの順となった。
7. 行政が観光リゾート産業を県のリーディング産業と位置付けていることについては、「それで良いと思う」が54.0%で「ほかの産業をリーディング産業にすべきである」の11.3%を大きく上回った。また「よくわからない」も33.0%と3割強あり、観光産業は重要な産業ではあるものの、リーディング産業と位置付けるには躊躇する見方も窺われる。
8. 観光振興策としてのカジノの導入については、「導入しないほうがよい」が37.1%と「導入した方がよい」の13.8%を大きく上回った。一方、「一定の条件をつければ導入してもよい」が27.4%あり、この一定の条件付きでの賛成を含めると41.2%となり、「導入しない方がよい」を上回る結果となった。また「導入すべきか否かについてよくわからない」と回答した割合も20.7%あった。

## .調査要領

- 1.調査目的 沖縄県の観光リゾート産業に関する県民の意識調査を実施し、一般の参考に供することを目的とする。
- 2.調査期間 2001年9月上旬
- 3.調査対象 当行来店客および渉外訪問先
- 4.調査内容 (1)観光収入、公共工事、基地収入が県経済に占める順位  
(2)観光リゾート産業の現在までの発展要因について  
(3)観光リゾート産業に関するイメージ(重要性、待遇、ステータス、就職人気)  
(4)あなたが普段取り組んでいること(観光立県の県民として)  
(5)今後、観光リゾート産業が県経済に占めるウエートについて  
(6)今後、振興した方がよい観光リゾート産業の部門について  
(7)行政が観光リゾート産業をリーディング産業と位置付けていることについて  
(8)観光振興策としてのカジノの導入について
- 5.回答者数(回収人数) 781人

(内訳)

(単位:人)

性別	男性	女性	不詳		
	274	489	18		
年代別	30歳未満	30代	40代	50代以上	不詳
	212	217	200	147	5
観光従事・非従事者別	従事者	非従事者			
	60	721			

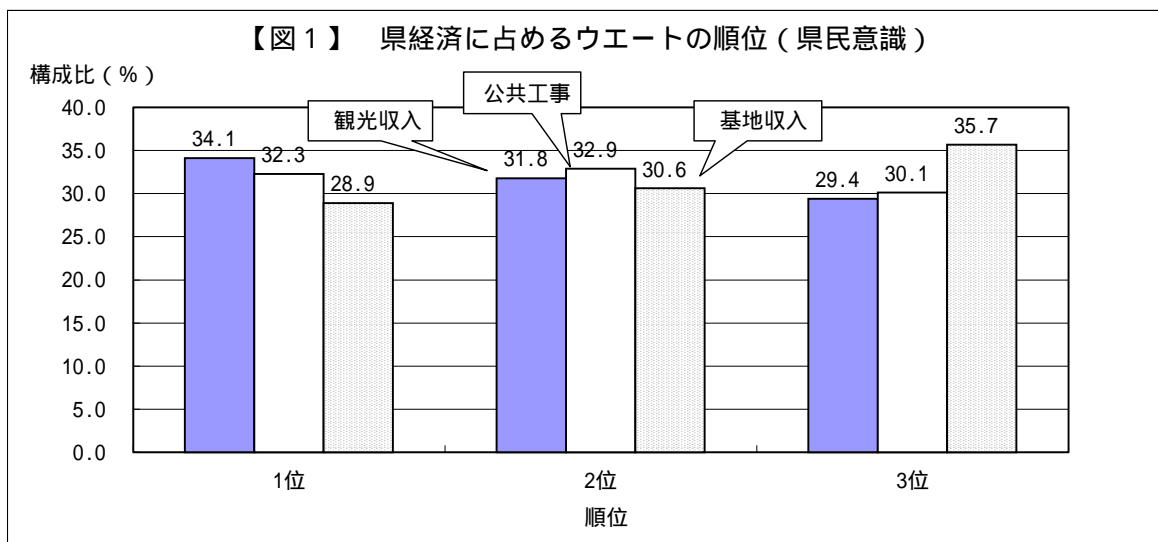
(注)観光従事者とは、回答者または回答者の配偶者のどちらかが観光関連の仕事をしている方である。観光非従事者とは、回答者および回答者の配偶者がどちらも観光関連の仕事をしていない方である。

## 調査結果

### 1. 観光収入、公共工事、基地収入が県経済に占める順位について

観光収入、公共工事、基地収入が県経済に占めるウエートの大きさの順位については、1位に「観光収入」と回答した人の構成比が34.1%と最も高く、次いで「公共工事」(32.3%)、「基地収入」(28.9%)の順となった。2位では「公共工事」(32.9%)が最も高く、3位では「基地収入」(35.7%)の回答が最も高くみられた。

参考までに、直近(1998年度)の名目県内総支出に占めるウエートをみると、「公共工事」が15.2%で最も高く、次いで「観光収入」(13.0%)、「基地収入」(5.5%)の順となっている。県民の意識の中では、観光立県「沖縄」や基地の島「沖縄」のそれぞれのイメージも強く、1位と回答した割合は3部門とも比較的拮抗している。



【表1】 県経済に占めるウエートの大きさの順位 (県民意識)

(単位: %)

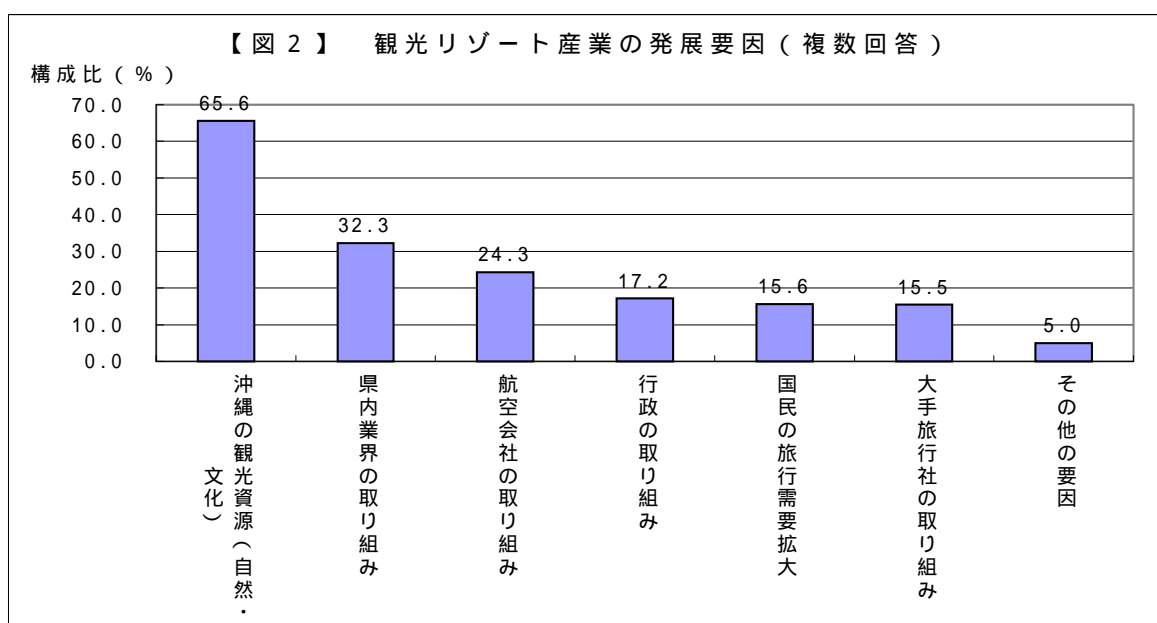
	回収人数 (人)	1位と回答した人の構成比			2位と回答した人の構成比			3位と回答した人の構成比		
		観光収入	公共工事	基地収入	観光収入	公共工事	基地収入	観光収入	公共工事	基地収入
全体	781	34.1	32.3	28.9	31.8	32.9	30.6	29.4	30.1	35.7
(性別)										
男性	274	39.1	35.8	23.0	28.1	35.8	33.9	30.7	26.3	40.9
女性	489	31.5	29.7	32.9	33.3	31.7	29.0	29.2	32.7	32.1
不詳	18	27.8	50.0	11.1	44.4	22.2	22.2	16.7	16.7	55.6
(年代別)										
30歳未満	212	34.4	23.1	37.7	31.1	34.9	29.2	29.7	37.3	28.3
30代	217	41.0	30.4	22.6	26.7	34.1	33.2	26.3	29.5	38.2
40代	200	31.0	38.0	27.5	32.0	30.5	34.0	33.5	28.0	35.0
50代以上	147	28.6	40.1	26.5	39.5	32.0	23.8	27.2	23.1	44.9
不詳	5	0.0	40.0	60.0	40.0	20.0	40.0	60.0	40.0	0.0
(観光従事・非従事別)										
観光従事者	60	33.3	43.3	16.7	38.3	30.0	25.0	21.7	20.0	51.7
観光非従事者	721	34.1	31.3	30.0	31.2	33.1	31.1	30.1	30.9	34.4

(注) 無回答もあるため、各項目(観光収入、公共工事、基地収入)の1位~3位の構成比の合計は100%に満たない。

性別で見ると、男性は1位で「観光収入」と回答した割合が高く、3位で「基地収入」と回答した割合が高かったものの、女性では1位が3部門とも概ね均等な割合となった。一方、年代別で見ると、50代以上で、また観光従事者・非従事者別では、観光従事者で、1位に「公共工事」、2位に「観光収入」、3位に「基地収入」の回答の割合が高く、実際のウエートの順位と近い割合になった。

## 2. 観光リゾート産業の現在までの発展要因について

沖縄の観光リゾート産業が発展した要因（複数回答）については、「沖縄の観光資源（自然・文化）」と回答した割合が65.6%で最も高く、2位の「県内業界の取り組み」（32.3%）を大きく上回った。次いで「航空会社の取り組み」（24.3%）、「行政の取り組み」（17.2%）、「国民の旅行需要拡大」（15.6%）、「大手旅行社の取り組み」（15.5%）の順となった。



性別で見ると、男性では「大手旅行社の取り組み」が18.6%と「行政の取り組み」（16.8%）や「国民の旅行需要拡大」（15.3%）を上回った。年代別では、30代で「沖縄の観光資源」が72.8%とかなり高い割合となり、また観光従事者・非従事者別では観光従事者で「沖縄の観光資源」（58.3%）に次いで、「大手旅行社の取り組み」（30.0%）が高い割合となった。

【表2】 観光リゾート産業の発展要因（複数回答）

（単位：％）

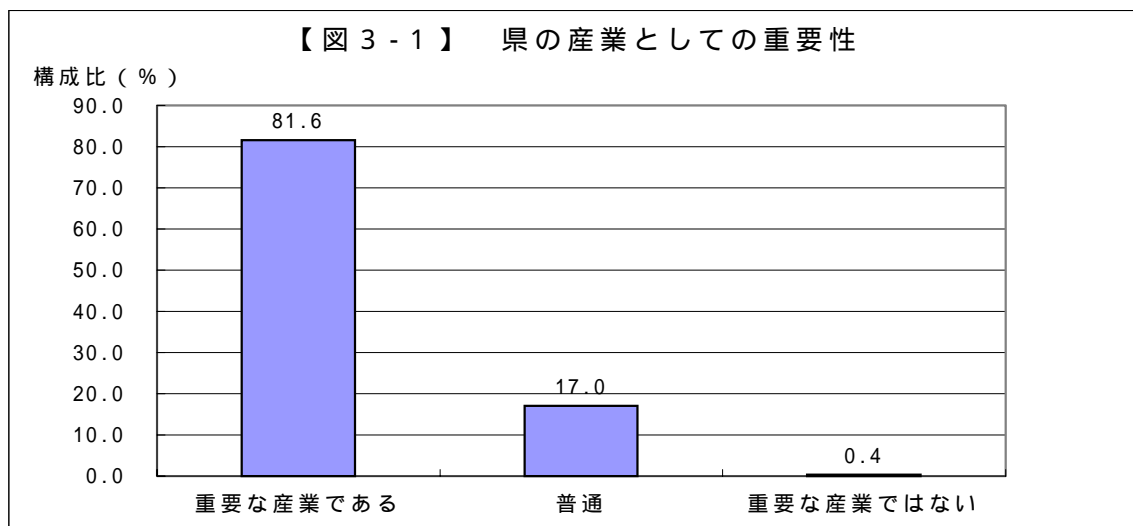
	回収人数 （人）	沖縄の観光 資源	県内業界の 取り組み	航空会社の 取り組み	行政の取り 組み	国民の旅行 需要拡大	大手旅行社 の取り組み	その他の要 因
全体	781	65.6	32.3	24.3	17.2	15.6	15.5	5.0
（性別）								
男性	274	62.8	28.1	27.0	16.8	15.3	18.6	7.3
女性	489	66.5	35.4	22.9	16.8	15.7	13.7	3.9
不詳	18	83.3	11.1	22.2	33.3	16.7	16.7	0.0
（年代別）								
30歳未満	212	66.5	36.8	18.9	9.4	15.1	12.7	9.0
30代	217	72.8	32.3	24.9	15.2	18.0	12.9	4.6
40代	200	62.5	31.0	30.0	21.5	12.0	21.0	3.5
50代以上	147	58.5	28.6	22.4	24.5	18.4	14.3	2.0
不詳	5	40.0	0.0	60.0	40.0	0.0	60.0	0.0
（観光従事・非従事別）								
観光従事者	60	58.3	28.3	28.3	15.0	15.0	30.0	1.7
観光非従事者	721	66.2	32.6	24.0	17.3	15.7	14.3	5.3

（注）複数回答（2つ以内）のため構成比の合計は100%を超える。

### 3. 観光リゾート産業に対するイメージ

#### （1）県の産業としての重要性

県の産業としての重要性については、「重要な産業である」が81.6%と大半を占め、次いで「普通」（17.0%）、「重要な産業ではない」（0.4%）の順となり、観光リゾート産業が本県の基幹産業であるといった認識は県民の中で極めて強いといえる。



性別で見ると、「重要な産業である」といった意識は男性でより強くみられ、年代別では40代以上で、また観光従事者・非従事者別では観光従事者でより強くみられた。

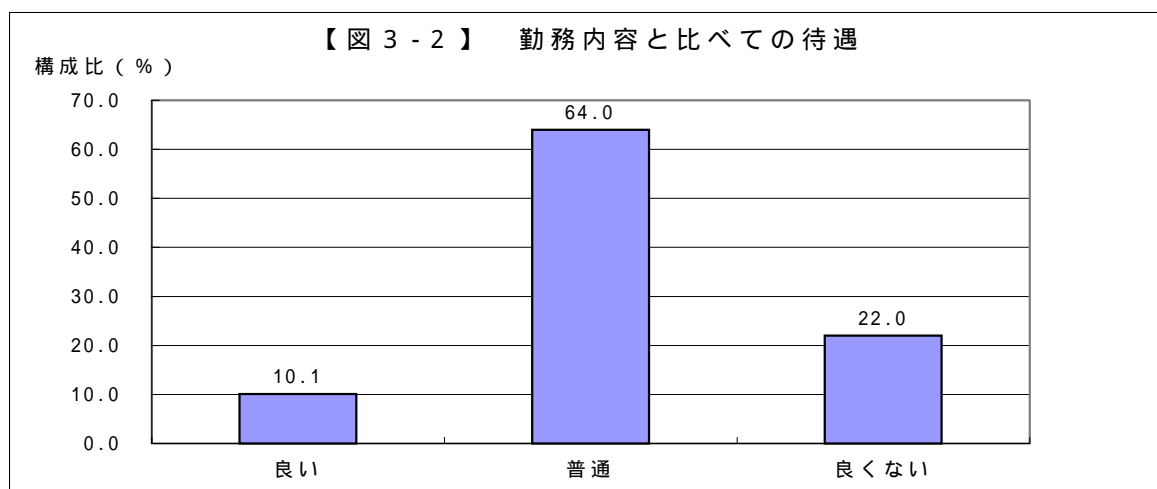
【表3-1】 県の産業としての重要性

	回収人数 (人)	重要な産業で ある	普通	重要な産業で はない
全体	781	81.6	17.0	0.4
(性別)				
男性	274	86.1	13.5	0.4
女性	489	79.1	18.8	0.4
不詳	18	77.8	22.2	0.0
(年代別)				
30歳未満	212	77.8	22.2	0.0
30代	217	80.2	18.4	0.5
40代	200	86.5	11.0	1.0
50代以上	147	83.7	14.3	0.0
不詳	5	40.0	60.0	0.0
(観光従事・非従事別)				
観光従事者	60	93.3	6.7	0.0
観光非従事者	721	80.6	17.9	0.4

(注) 無回答があるため、構成比の合計は100%に満たない。

## (2) 勤務内容と比べての待遇

勤務内容と比べての待遇についてのイメージは、「普通」が64.0%で最も高く、次いで「良くない」(22.0%)、「良い」(10.1%)の順となった。



性別、年代別でも総じて同じ傾向がみられた。また観光従事者・非従事者別で見ると、観光従事者において待遇が「良くない」と回答した割合が35.0%となり「良い」(11.7)を大きく上回った。

【表3-2】 勤務内容と比べての待遇

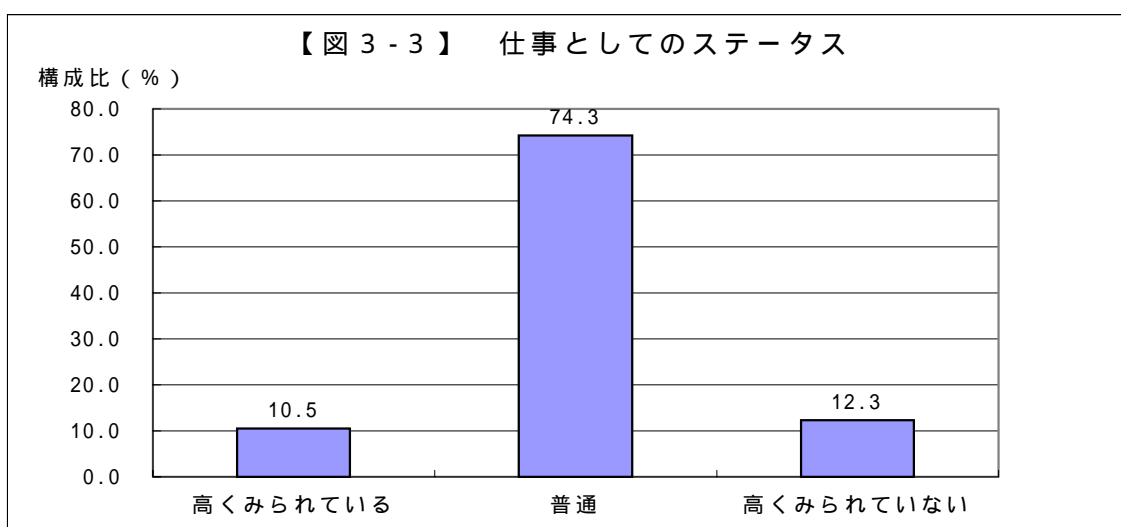
(単位：%)

	回収人数 (人)	良い	普通	良くない
全体	781	10.1	64.0	22.0
(性別)				
男性	274	10.6	61.3	26.3
女性	489	9.8	65.2	20.0
不詳	18	11.1	72.2	11.1
(年代別)				
30歳未満	212	11.3	67.9	19.3
30代	217	8.3	65.4	23.0
40代	200	9.5	59.0	26.5
50代以上	147	12.2	63.3	17.7
不詳	5	0.0	60.0	40.0
(観光従事・非従事別)				
観光従事者	60	11.7	53.3	35.0
観光非従事者	721	10.0	64.9	20.9

(注) 無回答があるため、構成比の合計は100%に満たない。

### (3) 仕事としてのステータス

仕事としてのステータスについてのイメージは、「普通」が74.3%で最も高く、次いで「高くみられていない」(12.3%)、「高くみられていない」(10.5%)の順となった。



性別では、男性で「高くみられていない」が「高くみられている」よりも高い割合となり、年代別では30歳未満から30代、40代にかけて同様の傾向がみられた。

また、観光従事者・非従事者別では観光従事者で「高くみられている」(20.0%)が「高くみられていない」(13.3%)を上回った。



【表3-3】 仕事としてのステータス

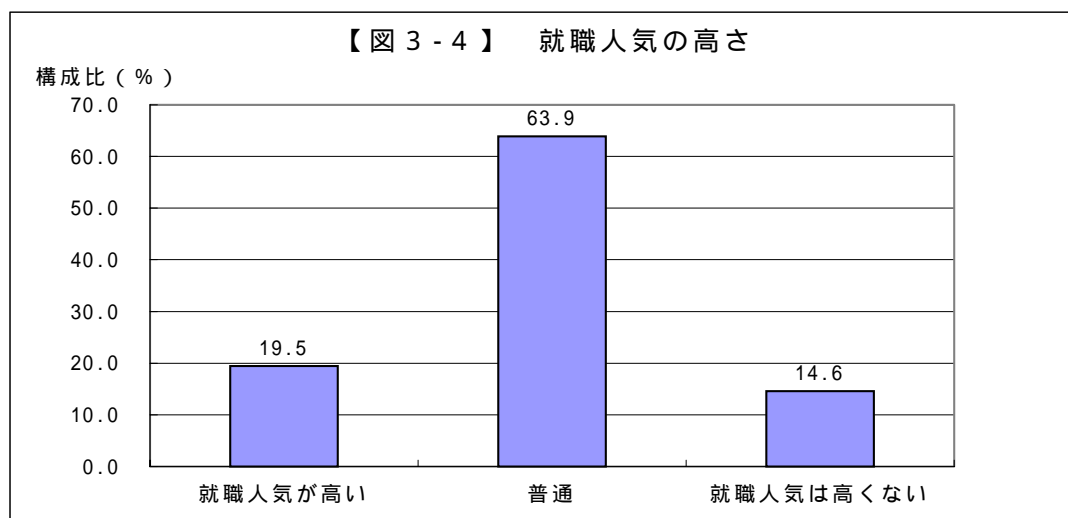
(単位：%)

	回収人数 (人)	高くみられて いる	普通	高くみられて いない
全体	781	10.5	74.3	12.3
(性別)				
男性	274	9.1	74.1	14.6
女性	489	11.2	74.0	11.2
不詳	18	11.1	83.3	5.6
(年代別)				
30歳未満	212	11.3	72.2	14.6
30代	217	8.3	78.3	11.1
40代	200	11.0	73.5	13.5
50代以上	147	11.6	72.8	8.8
不詳	5	20.0	60.0	20.0
(観光従事・非従事別)				
観光従事者	60	20.0	65.0	13.3
観光非従事者	721	9.7	75.0	12.2

(注) 無回答があるため、構成比の合計は100%に満たない。

#### (4) 就職人気の高さ

就職人気の高さについてのイメージは、「普通」が63.9%で最も高く、次いで「就職人気が高い」が19.5%で「就職人気は高くない」(14.6%)を上回った。



性別で見ると、男性では「就職人気が高い」(17.5%)と「就職人気は高くない」(16.4%)がほぼ拮抗したものの、女性では「就職人気が高い」(20.2%)が「就職人気は高くない」(14.1%)を上回った。年代別では総じて各年代とも「就職人気が高い」が「就職人気は高くない」を上回っており、特に若年層でその傾向が強くみられた。一方、観光従事者・非従事者別では、観光従事者で「就職人気は高くない」(28.3%)が「就職人気が高い」(15.0%)を大きく上回った。

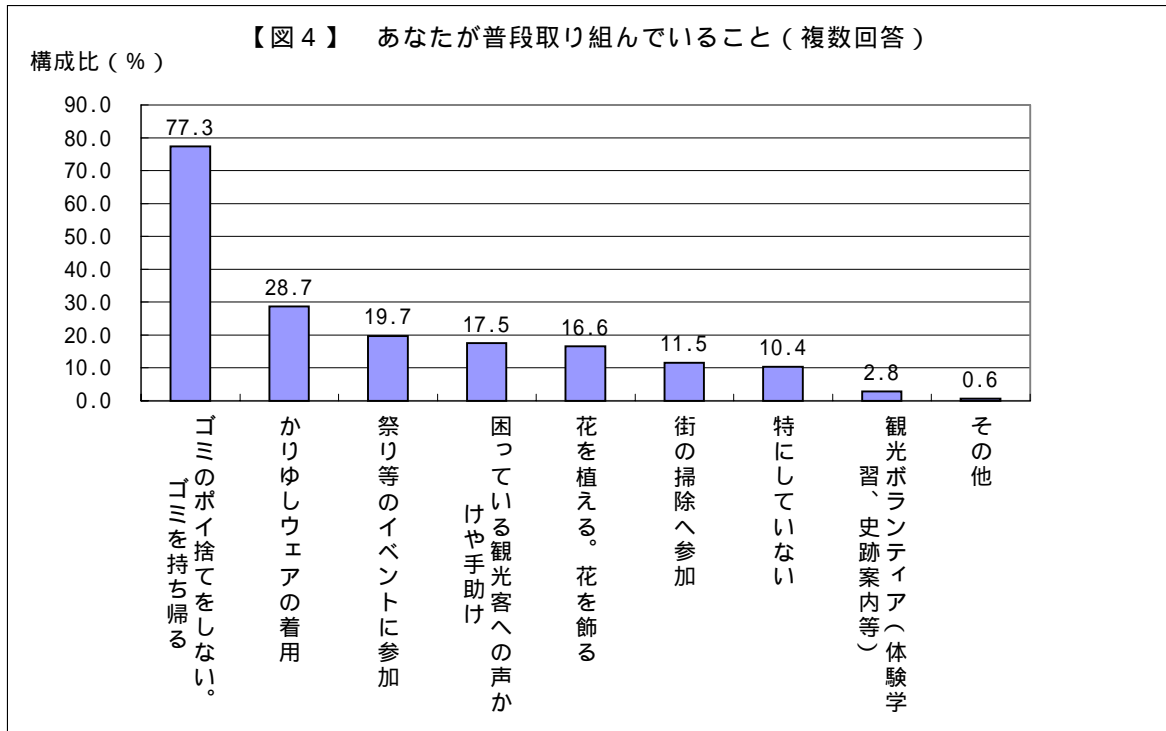
【表3-4】 就職人気の高さ

	回収人数 (人)	就職人気が高い	普通	就職人気は高くない
全体	781	19.5	63.9	14.6
(性別)				
男性	274	17.5	65.0	16.4
女性	489	20.2	63.0	14.1
不詳	18	27.8	72.2	0.0
(年代別)				
30歳未満	212	22.6	62.7	12.7
30代	217	18.4	65.9	14.3
40代	200	19.0	62.5	17.5
50代以上	147	17.0	63.9	14.3
不詳	5	20.0	80.0	0.0
(観光従事・非従事別)				
観光従事者	60	15.0	55.0	28.3
観光非従事者	721	19.8	64.6	13.5

(注) 無回答があるため、構成比の合計は100%に満たない。

#### 4. あなたが普段取り組んでいること

観光立県の県民として、普段取り組んでいること(複数回答)については「ゴミのポイ捨てをしない。ゴミを持ち帰る」が77.3%で最も高く、次いで「かりゆしウェアの着用」(28.7%)、「祭り等のイベントに参加」(19.7%)、「困っている観光客への声かけや手助け」(17.5%)、「花を植える。花を飾る」(16.6%)、「街の掃除への参加」(11.5%)、「特にしていない」(10.4%)、「観光ボランティア(体験学習、史跡案内等)」(2.8%)の順となった。



性別で見ると「ゴミのポイ捨てをしない。ゴミを持ち帰る」や「花を植える。花を飾る」の割合は、女性が男性より高く、「かりゆしウェアの着用」や「祭り等のイベントに参加」の割合は男性が女性より高かった。

年代別では、「祭り等のイベントに参加」は若年層で高く、「困っている観光客への声かけや手助け」、「花を植える。花を飾る」は高齢者層ほど高くみられた。また、「観光ボランティア」も50代以上で比較的にみられた。

一方、観光従事者・非従事者別で見ると、観光従事者においては「かりゆしウェアの着用」(50.0%)や「困っている観光客への声かけや手助け」(35.0%)が高い割合となった。

【表4】 あなたが普段取り組んでいること(複数回答)

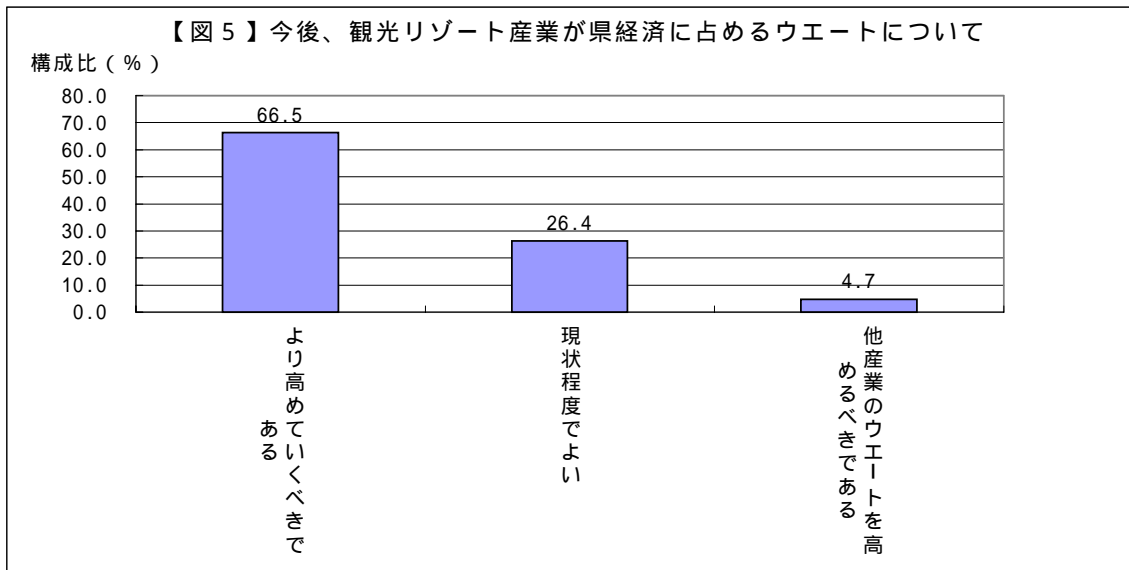
	回収人数 (人)	ゴミのポイ 捨てをしな い。ゴミを 持ち帰る	かりゆし ウェアの着 用	祭り等のイ ベントに参 加	困っている 観光客への 声かけや手 助け	花を植え る。花を飾 る	街の掃除へ 参加	特こしてい ない	観光ボラン ティア(体 験学習、史 跡案内等)	その他
全体	781	77.3	28.7	19.7	17.5	16.6	11.5	10.4	2.8	0.6
(性別)										
男性	274	67.5	33.6	24.1	19.7	11.7	12.4	13.5	3.3	1.5
女性	489	82.4	25.8	17.4	16.4	19.4	11.2	8.6	2.5	0.2
不詳	18	88.9	33.3	16.7	16.7	16.7	5.6	11.1	5.6	0.0
(年代別)										
30歳未満	212	69.8	24.5	24.1	12.3	7.1	6.1	13.2	2.8	0.5
30代	217	83.4	27.2	19.4	14.3	9.2	6.9	11.5	1.4	0.9
40代	200	80.5	33.5	16.0	22.0	22.0	18.0	7.0	2.0	0.5
50代以上	147	76.2	29.3	17.7	23.8	34.7	17.7	8.8	6.1	0.7
不詳	5	40.0	60.0	60.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0
(観光従事・非従事別)										
観光従事者	60	78.3	50.0	20.0	35.0	15.0	10.0	5.0	10.0	1.7
観光非従事者	721	77.3	26.9	19.7	16.1	16.8	11.7	10.8	2.2	0.6

(注) 複数回答のため、構比の合計は100%を超える。

## 5. 今後、観光リゾート産業が県経済に占めるウエートについて

今後、観光リゾート産業が県経済に占めるウエートについては、「より高めていくべきである」が66.5%で最も高く、次いで「現状程度でよい」(26.4%)、「他産業のウエートを高めるべきである」(4.7%)の順となり、今後とも観光リゾート産業のウエートを高めていくべきであるといった意見が過半を占めた。

性別で見ると、男性、女性とも「より高めていくべきである」といった割合はほぼ同じ割合で高くみられた。また年代別では、どの年代でも「より高めていくべきである」といった割合が高かったものの、若年層では「現状程度でよい」の割合も比較的にみられた。一方、観光従事者・非従事者別では、観光従事者で「より高めていくべきである」の割合が観光非従事者を若干上回った。



【表5】今後、観光リゾート産業が県経済に占めるウエートについて

(単位：%)

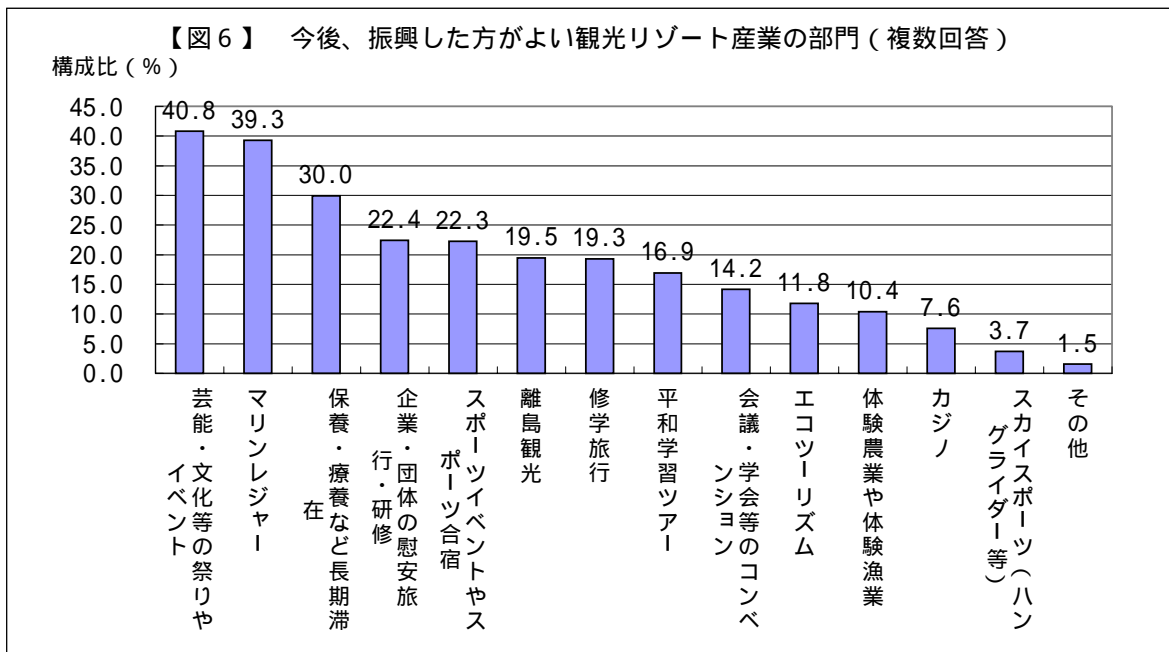
	回収人数 (人)	より高めていくべきである	現状程度でよい	他産業のウエートを高めるべきである
全体	781	66.5	26.4	4.7
(性別)				
男性	274	67.5	25.9	6.2
女性	489	66.5	26.2	3.9
不詳	18	50.0	38.9	5.6
(年代別)				
30歳未満	212	64.6	30.2	3.8
30代	217	65.0	29.0	2.8
40代	200	70.0	20.0	7.0
50代以上	147	67.3	24.5	6.1
不詳	5	40.0	60.0	0.0
(観光従事・非従事別)				
観光従事者	60	71.7	20.0	3.3
観光非従事者	721	66.0	26.9	4.9

(注) 無回答があるため、構成比の合計は100%に満たない。

## 6. 今後、振興した方がよい観光リゾート産業の部門

今後、振興した方がよい観光リゾート産業の部門(複数回答)については、「芸能・文化等の祭りやイベント」が40.8%で最も高く、次いで「マリトレジャー」(39.3%)、「保養・療養など長期滞在型観光」(30.0%)、「企業・団体の慰安旅行・研修」(22.4%)、「スポーツイベントやスポーツ合宿」(22.3%)、「離島観光」(19.5%)などの順となった。

性別では、男性で「マリトレジャー」(39.4%)や「保養・療養など長期滞在型観光」(35.4%)が高く、女性では「芸能・文化等の祭りやイベント」(45.0%)、「マリ



「マリレジャー」（39.5%）の割合が高かった。また、男性の回答の割合が女性より高かったものとしては、「スポーツイベントやスポーツ合宿」、「会議・学会等のコンベンション」、「エコツーリズム」、「カジノ」などが挙げられ、女性の回答の割合が男性より高かったものとしては「修学旅行」、「平和学習ツアー」などがあつた。

年代別では、若年層ほど「マリレジャー」の割合が高く、高齢者層ほど「保養・療養など長期滞在型観光」の割合が高かった。また若年層ではこのほか「離島観光」の割合も比較的高く、高齢者層では、「企業・団体の慰安旅行・研修」や「会議・学会等のコンベンション」の割合も高くみられた。

【表6】今後 振興した方がよい観光リゾート産業の部門（複数回答）

(単位:%)

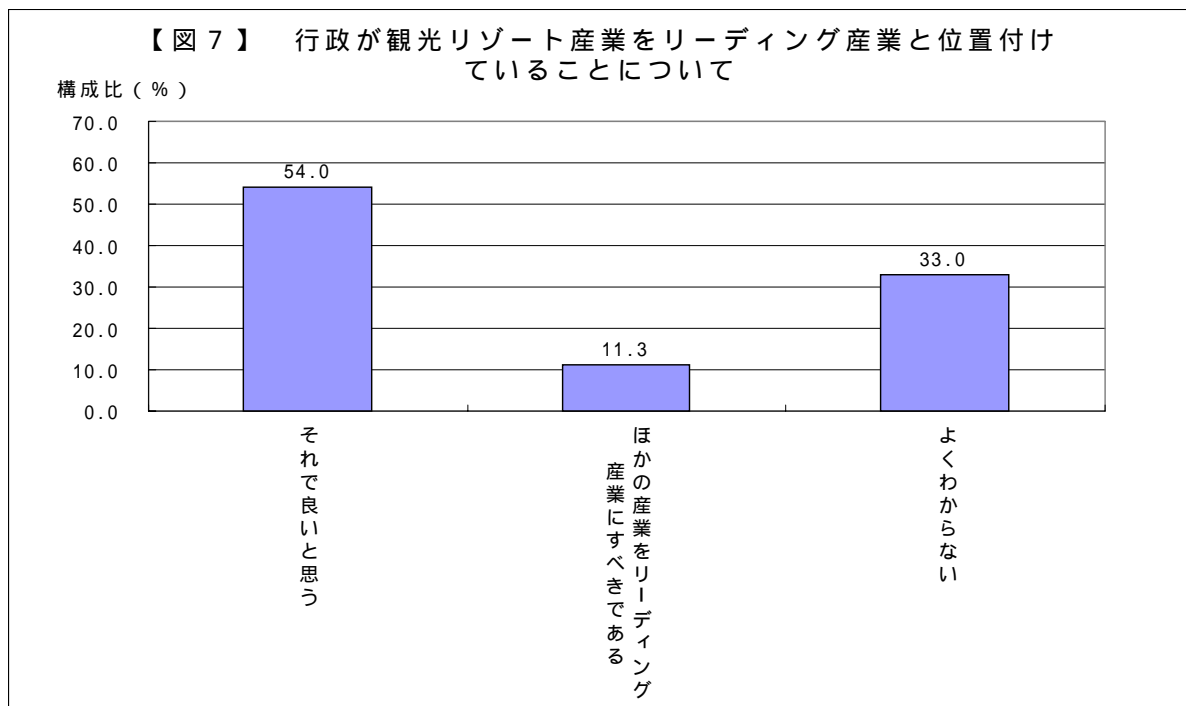
	回答数(人)	芸能・文化等の祭りやイベント	マリレジャー	保養・療養など長期滞在	企業・団体の慰安旅行・研修	スポーツイベントやスポーツ合宿	離島観光	修学旅行	平和学習ツアー	会議・学会等のコンベンション	エコツーリズム	体験農業や体験漁業	カジノ	スカイスポーツ(ハングライダー等)	その他
全体	781	40.8	39.3	30.0	22.4	22.3	19.5	19.3	16.9	14.2	11.8	10.4	7.6	3.7	1.5
(性別)															
男性	274	31.8	39.4	35.4	17.2	27.4	18.2	16.8	12.4	18.6	15.3	10.2	13.1	1.8	0.7
女性	489	45.0	39.5	27.0	25.2	19.2	20.7	21.1	19.2	11.9	9.4	10.8	4.5	4.7	2.0
不詳	18	66.7	33.3	27.8	27.8	27.8	5.6	11.1	22.2	11.1	22.2	0.0	5.6	5.6	0.0
(年代別)															
30歳未満	212	38.2	54.7	14.2	15.1	22.6	29.2	15.6	17.0	6.1	9.4	11.3	8.5	6.6	1.4
30代	217	45.2	44.7	24.9	19.8	23.0	20.3	18.4	16.1	11.1	13.4	9.7	6.9	3.7	1.8
40代	200	37.0	31.5	39.5	26.5	23.5	14.0	24.5	22.5	18.0	16.0	12.5	7.5	3.0	0.5
50代以上	147	43.5	20.4	48.3	30.6	18.4	12.2	19.0	10.9	24.5	7.5	7.5	6.8	0.7	2.7
不詳	5	40.0	20.0	0.0	40.0	40.0	0.0	20.0	0.0	40.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0
(観光従事・非従事別)															
観光従事者	60	45.0	35.0	23.3	41.7	15.0	11.7	25.0	25.0	20.0	8.3	1.7	8.3	5.0	0.0
観光従事者以外	721	40.5	39.7	30.5	20.8	22.9	20.1	18.9	16.2	13.7	12.1	11.1	7.5	3.6	1.7

(注)複数回答(3つ以内)のため 構成比の合計は100%を超える。

一方、観光従事者・非従事者別でみると、観光従事者では「芸能・文化等の祭りやイベント」に次いで「企業・団体の慰安旅行・研修」の割合が高く、観光非従事者では「芸能・文化等の祭りやイベント」に次いで「マリンレジャー」の割合が高かった。

#### 7. 行政が観光リゾート産業を県のリーディング産業と位置付けていることについて

行政が観光リゾート産業を県のリーディング産業と位置付けていることについては、「それで良いと思う」が54.0%で「ほかの産業をリーディング産業にすべきである」の11.3%を大きく上回った。また「よくわからない」も33.0%と3割強あり、観光産業は重要な産業ではあるものの、リーディング産業と位置付けるには躊躇する見方も窺われる。



性別でみると、観光リゾート産業を県のリーディング産業と位置付けることについて「それで良いと思う」と回答した割合が男性で高く、また「よくわからない」は女性で高かった。年代別では、どの年代でも「それで良いと思う」が総じて高い割合となったが、若年層では「よくわからない」と回答した割合も高く、また高齢者層では「ほかの産業をリーディング産業にすべきである」と回答した割合が比較的高くみられた。一方、観光従事者・非従事者別でみると、観光従事者で「それで良いと思う」と回答した割合が観光非従事者の割合を上回った。

【表7】 行政が観光リゾート産業をリーディング産業と位置付けていることについて

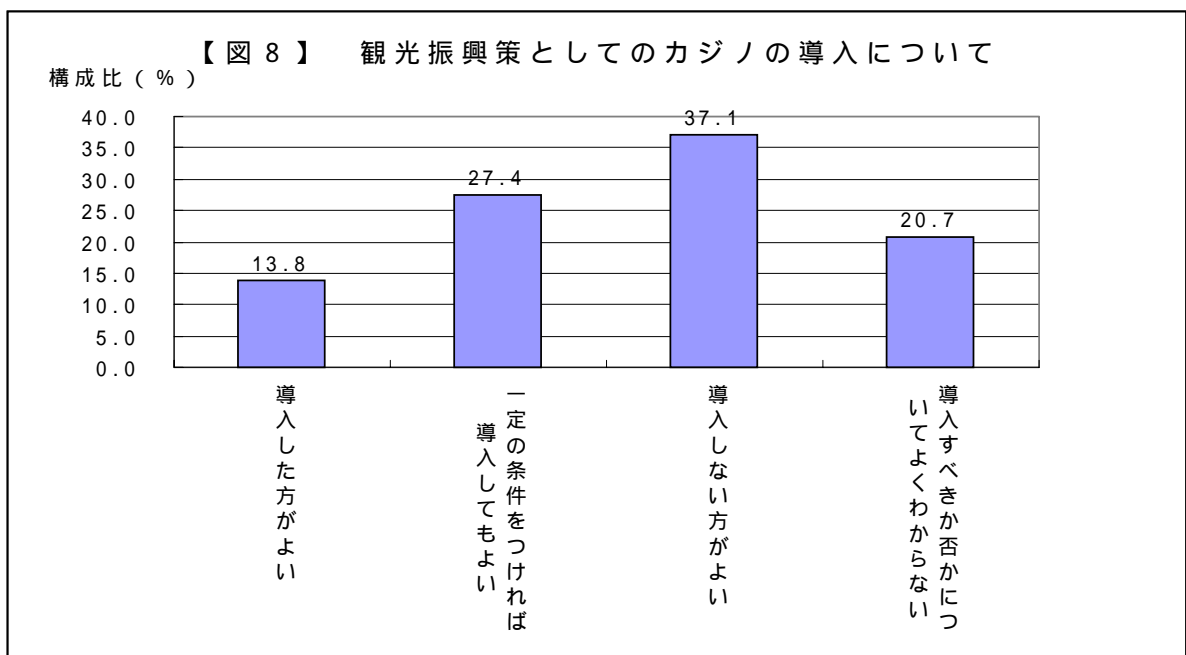
(単位：%)

	回収人数 (人)	それで良いと 思う	ほかの産業を リーディング 産業にすべき である	よくわから ない
全体	781	54.0	11.3	33.0
(性別)				
男性	274	63.5	14.2	21.5
女性	489	49.3	9.6	38.9
不詳	18	38.9	11.1	50.0
(年代別)				
30歳未満	212	48.1	8.5	42.9
30代	217	51.6	7.8	38.2
40代	200	61.5	13.5	23.0
50代以上	147	55.8	17.7	24.5
不詳	5	60.0	0.0	40.0
(観光従事・非従事別)				
観光従事者	60	63.3	8.3	28.3
観光非従事者	721	53.3	11.5	33.4

(注) 無回答があるため、構成比の合計は100%に満たない。

## 8. 観光振興策としてのカジノの導入について

観光振興策としてのカジノの導入については、「導入しないほうがよい」が37.1%と「導入した方がよい」の13.8%を大きく上回った。一方、「一定の条件をつければ導入してもよい」が27.4%あり、この一定の条件付きでの賛成を含めると41.2%となり、「導入しないほうがよい」を上回る結果となった。また「導入すべきか否かについてよくわからない」と回答した割合も20.7%あった。



性別で見ると、男性では「一定の条件をつければ導入してもよい」が35.4%で最も高く、次いで「導入しない方がよい」(30.7%)、「導入した方がよい」(23.7%)の順となったのに対し、女性では「導入しない方がよい」(40.7%)が最も高く、次いで「導入すべきか否かについてよくわからない」(26.8%)の順となった。

年代別では若年層で「導入した方がよい」がほかの年代層より若干高く、「導入しない方がよい」は40代を中心に高齢者層で高くみられた。

観光従事者・非従事者別で見ると、観光従事者で「導入した方がよい」の割合が若干高くみられた。

【表8】 観光振興策としてのカジノの導入について

(単位：%)

	回収人数 (人)	導入した方がよい	一定の条件をつければ導入してもよい	導入しない方がよい	導入すべきか否かについてよくわからない
全体	781	13.8	27.4	37.1	20.7
(性別)					
男性	274	23.7	35.4	30.7	9.5
女性	489	8.4	23.1	40.7	26.8
不詳	18	11.1	22.2	38.9	27.8
(年代別)					
30歳未満	212	17.0	28.3	29.7	24.5
30代	217	10.1	31.3	37.3	20.7
40代	200	14.0	24.0	43.0	17.5
50代以上	147	14.3	25.9	38.8	19.7
不詳	5	20.0	0.0	60.0	20.0
(観光従事・非従事別)					
観光従事者	60	18.3	26.7	36.7	18.3
観光非従事者	721	13.5	27.5	37.2	20.9

(注) 無回答があるため、構成比の合計は100%に満たない。